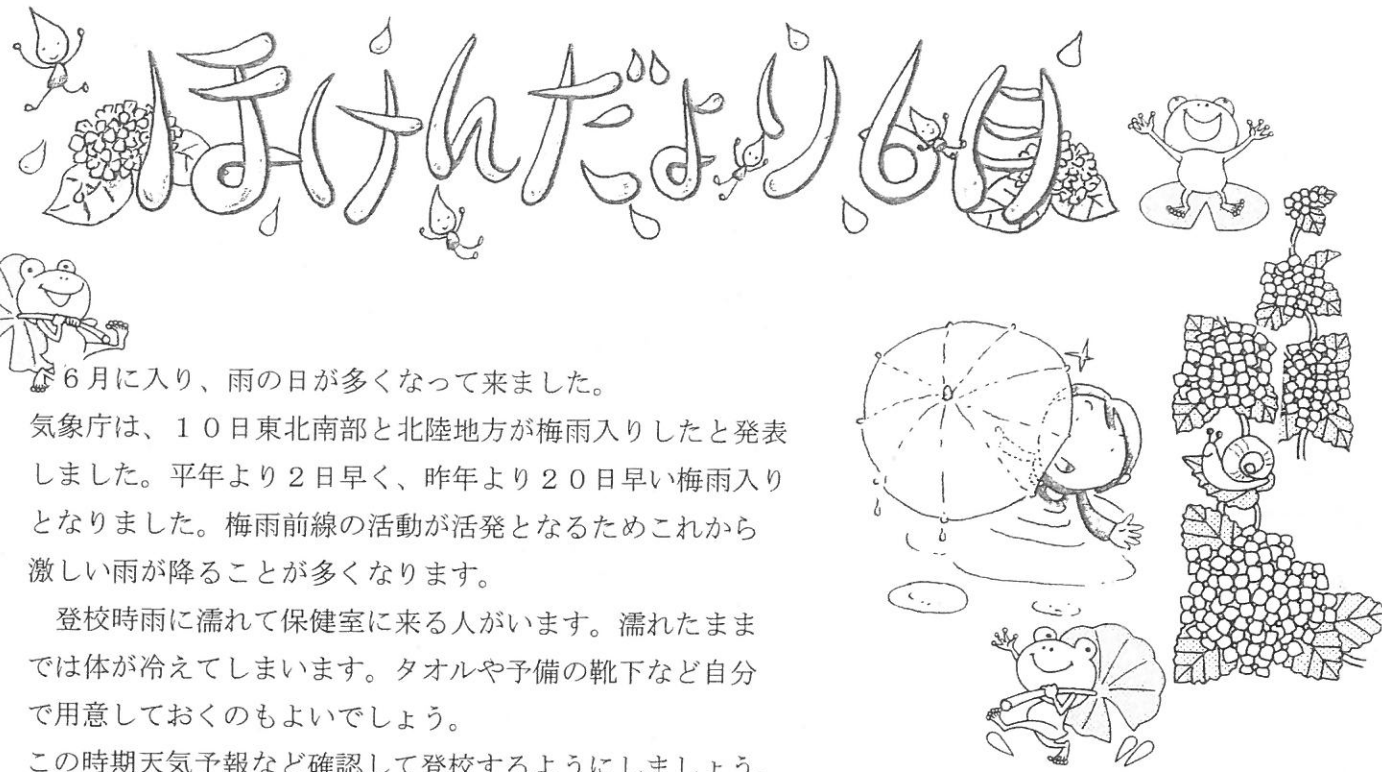




6月に入り、雨の日が多くなって来ました。

気象庁は、10日東东南部と北陸地方が梅雨入りしたと発表しました。平年より2日早く、昨年より20日早い梅雨入りとなりました。梅雨前線の活動が活発となるためこれから激しい雨が降ることが多くなります。

登校時雨に濡れて保健室に来る人がいます。濡れたままでは体が冷えてしまいます。タオルや予備の靴下など自分で用意しておくのもよいでしょう。

この時期天気予報など確認して登校するようにしましょう。

また、湿度が高く、蒸し暑い日もあります。気温に合わせて衣服で上手に体温を調節し体調をくずさないように気をつけましょう。

梅雨はこんなところに注意して生活しましょう。

・怪我や事故

雨に濡れた廊下や階段は滑りやすいです。また、傘をさしていると周りが見えにくいので注意が必要です。

・気温の差

梅雨は、蒸し暑かったり肌寒かったりと不安定な気候が続きます。上着などで上手に体温調節をしてください。

・食中毒

食中毒の原因となる細菌は、室温（約20℃）で活発になり数が増えます。食べる前には必ず手洗いをして、食べ物を長期間室温で放置しないようにしましょう。

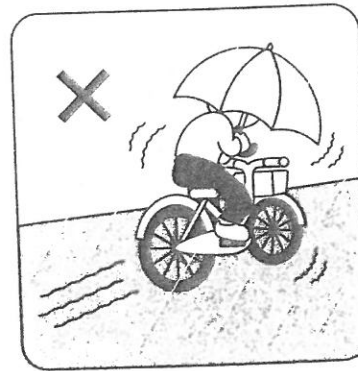
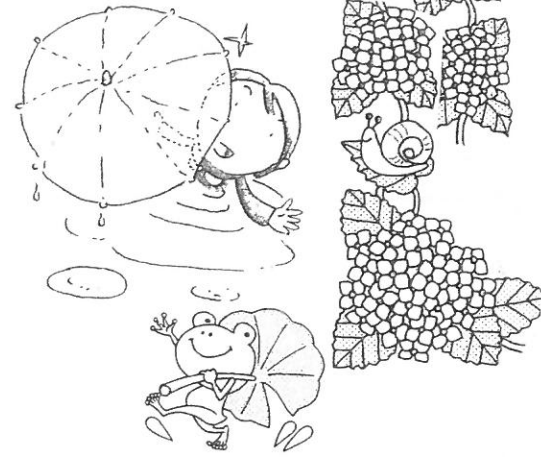
歯科検診の治療勧告書を配付しました。

5月17日に歯科検診を実施しました。

虫歯のない人と治療が完了している人・・・・・・・・・・101名

虫歯のある人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53名

これ以外にも歯肉の状態が悪い人や歯垢の付着が見受けられる人もいます。



傘を差しながら自転車に乗らない



お弁当・飲み物の
常温放置はNG



80歳になっても自分の歯が20本以上あるのが8020。歯が20本以上あれば、よく噛めるのでいつまでも自分の好きな物を楽しく食べることが出来るのです。

平成28年度の厚生労働省の調査では、8020達成者は51.2%（75歳以上85歳未満の数値から推計）。2人に1人は達成できています。すごいですね。皆さんも70年後この波に乗れますように食後の歯磨きをこれからも頑張って続けてください。

麻しんについて

・発生状況

日本で平成19年・20年に10代～20代を中心に大きな流行がみられました。平成20年より5年間、中学1年相当、高校3年相当の年代に2回目の麻しんワクチン接種を受ける機会を設けたことで、平成21年以降10代～20代の患者数は激減しました。

また、平成27年3月27日、世界保健機関西太平洋地域事務局により、日本が麻しんの排除状態にあることが認定されましたが、世界には麻しんが流行している国や地域があります。

現在は海外渡航も容易にできるため国外からのウイルスにより発症している例が今年も報告されています。

・麻しんとは

麻しんウイルスによって引き起こされる急性の感染症です。

感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染でその感染力は非常に強いと言われ一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

・症状

感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日発熱した後39℃以上の高熱と発疹が出現し肺炎などの合併症もあります。

・麻しんに罹ったかもしれない時は

発熱や発疹などの麻しんのような症状がある場合は、かかりつけの医院や医療機関に電話で伝え、受診の可否や指示に従ってください。周囲の方への感染を防ぐためマスクを着用し、公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

厚生労働省ホームページより

麻しんに罹った場合は学校に連絡してください。

麻しんは学校保健法での出席停止扱いになります。